

## 保屋野良治君の思い出

宮原 豊 (9組)

どういふ天の采配か、65期460人、11クラスの中の9組に保屋野姓の二人が前後の席に並んでいました。保屋野美佐子さんも良治君も、二人とも僕の苦手な理数系にも強い優等生でした。僕は一緒に数Ⅲを履修したことが自慢ですが、単位を取得した記憶がありません。良治君は無口だけれど付き合いが悪いわけではなく、9組の悪童どもに嫌な顔することなく付き合いしてくれました。1年生の夏休み前に塩田町の君の家を訪ねたことがあります。お母上と交わす一言二言に、君がいかに大切に育てられてきたかを感じ、自由（と云えば聞こえはいいが）放任に育てられたわが身との違いを意識しました。思えば、その時から良治君とお母上に大いに感化されたことに深く感謝します。

いつ頃だったかはっきり記憶していませんが、長野県内で医師をしていた君が東京に移ってきました。お母上は亡くなられたとのことでしたが、その後は関東同窓会や65期同期の集まりで何回も会いました。二次会に行っても君はカラオケに行くことはありませんでした。2018年9月の古希の集まりの後、カラオケに行き赤尾晴夫君（9組）や木村（旧姓古市）和子さん（10組）と写っていますが、歌は固辞していました。しかし、コロナ禍が収まった22年10月には自らマイクを取り、それも見事な歌唱だったので驚きました。練習はYouTubeですとのこと、牧野泉君（9組）が実地で歌唱指導。23年6月にはさらに上達していて、丸山隆平君（9組）に次は新曲に挑戦すると言って別れました。最後に会ったのは23年9月ですが、歌は聞けませんでした。あの世で練習して待っていてくれ、みんなそのうち必ずそっちに行くからね。（2024年10月14日記）

写真は（左上）2018年、（右上）2022年（中央は店の女将）、（中央下）2023年

